

令和 5 年度天皇杯受賞者受賞理由概要
農産・蚕糸部門

地域と共に「知覧茶」のブランド化と仕上茶販売による経営確立

○氏名又は名称 株式会社 栢川製茶（代表 栢川 克可）

○所 在 地 鹿児島県南九州市

○出 品 財 産物（茶）

○受 賞 理 由

・ 地域の概要

南九州市は、鹿児島県薩摩半島の南部に位置しており、鹿児島県内でも有数の茶産地である。特に大型機械化による低コスト、高品質茶の生産により、全国茶品評会普通煎茶の部において、全国最多となる27回の産地賞を受賞し「知覧茶」として名声を高めている。

・ 受賞者の取組の経過と経営の現況

株式会社栢川製茶は、昭和 33 年に曾祖父が製茶工場を創業し、平成 25 年に法人化した。3 世代にわたり 50 年以上各種茶品評会に連続出品し、上位入賞するなど高く評価され、荒茶単価は県内平均を大幅に上回る高品質な茶の生産が実現されている。荒茶をブレンド・乾燥した仕上茶の平均単価は、荒茶単価の約 3 倍と高く、仕上茶販売を主体とすることにより安定した経営が行われている。

・ 受賞者の特色

（１）中山間地での乗用型機械導入による高品質低コスト生産

山間地の作業効率が低い圃場の造成を行い、経営面積の全てで乗用型機械化体系による省力化と低コスト生産を可能としている。摘採時期が集中しないように早中晩生品種を植栽し、摘採及び荒茶加工の効率化に取り組んでいる。

（２）技術研鑽による「知覧茶」のブランド化と仕上茶販売による高収益化

株式会社栢川製茶は、仲間とともに品評会挑戦を通じた茶生産技術の向上を図り、全国茶品評会で南九州市が連続産地賞を受賞するなど地域の生産者と一体となった「知覧茶」のブランド化に大きく貢献している。土壌診断に基づき有機質を主体とした施肥とカヤの投入による土づくりに取り組んでいる。自ら価格設定のできる仕上茶販売で高収益を上げ、その取組を地域で波及し収益向上に貢献している。

（３）女性の活躍

芽の伸育を見極めて被覆時期を決定する等、品質向上のための重要な役割を担っている。消費者目線に立った仕上茶の商品開発やホームページによる通販を実施し、月に 1 回お客様向けにお茶に関する便りを発行し、消費者とのつながりを大事にしている。

・ 普及性と今後の発展方向

3 世代にわたり茶品評会に出品し、地域全体の技術レベルを引き上げ知名度が高まった。今後、少量のセット販売や消費者が買いやすい価格設定、品種ごとの特性を活かした単一品種の商品など多彩な新商品を揃える計画である。また、有機栽培による高品質な生産技術を確立し、海外での緑茶普及と輸出茶の販売拡大が期待される。

令和5年度天皇杯受賞者受賞理由概要
園芸部門

消費者の求める「皮まで食べられるレモン」に特別栽培で取り組む

○氏名又は名称 セとだエコレモングループ（代表 宮本 悟郎）

○所 在 地 広島県尾道市

○出 品 財 経 営（レモン）

○受 賞 理 由

・地域の概要

尾道市瀬戸田町は、広島県の東南部、尾道市と愛媛県今治市を結ぶ西瀬戸自動車道（愛称：瀬戸内しまなみ海道）の中央に位置し、生口島と高根島の2つの島からなる。年平均気温は15.9℃、年間降水量は1,100mm前後と温暖寡雨な瀬戸内特有の気候であり、レモン栽培に適した年平均気温15.5℃以上の条件を満たす。また、瀬戸内地域は風が弱く、強風により発生が助長される「かいよう病」の被害を回避する上でも好条件であることから、全国有数のレモン産地となっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

輸入自由化と寒波によりレモンの生産が激減した瀬戸田町では、消費者の安全・安心志向に応えることで産地の復興を図るべく、レモンの特別栽培に取り組み、平成20年に生産者全員が広島県特別栽培農産物の認証を取得し、せとだエコレモングループが結成された。本グループでは、特別栽培された「エコレモン」の安定出荷や販路の確保に努め、瀬戸田町は国内有数のレモン産地となっている。

・受賞者の特色

（１）特別栽培技術の確立

安定生産を基調として化学合成農薬・化学肥料の使用を低減した特別栽培に組織的に取り組み、独自の栽培基準や栽培管理手法を確立した。これにより、消費者の安全・安心志向に対応した「皮まで食べられるレモン」の安定供給を実現している。低温ハザードマップを活用し、収穫時期の寒波による被害を軽減する取組も進めている。

（２）安定的な販路確保と加工商品の開発

一般栽培に比べて加工仕向けの割合が高いため、食品メーカー等と連携して付加価値の高い商品を開発するとともに、量販店と連携した情報発信、周年出荷の取組、商標登録によるブランド力強化を図る等により販路の確保及び高価格での取引を実現することで、生産者が安心して特別栽培に取り組める環境を築いている。

・普及性と今後の発展方向

実需者ニーズに対応した生産・販売に取り組むとともに、スマート農業技術を利用した安定的な生産や地域資源を活用した特別栽培を行うことにより、持続性の高い経営と産地を確立し次世代に引き継いでいく。

令和 5 年度天皇杯受賞者受賞理由概要
畜産部門

地域粗飼料資源フル活用による強靱な肉用牛繁殖・肥育一貫経営

○氏名又は名称 株式会社 有田牧場（代表 有田 耕一）

○所 在 地 熊本県球磨郡錦町

○出 品 財 経営（肉用牛一貫・酪農）

○受 賞 理 由

・地域の概要

錦町は、熊本県南部に位置し、北部は人吉盆地の一部に含まれる平坦な地形で、南部は九州山地の一角を成す山がちな地形である。錦町の農業産出額は、令和 2 年度で61億2千万円であり、うち畜産は65.4%の40億円であり、肉用牛が21.6億円、飼養戸数101戸、飼養頭数6,278頭となっており、町内の家畜市場や食肉処理施設関連産業と併せて中核的な産業となっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

（株）有田牧場の有田耕一氏は、平成 20 年に先代から引き継いだ畜産経営（黒毛和種繁殖牛 8 頭、ホルスタイン種経産牛 50 頭）を、肉用牛部門を中心に規模拡大（黒毛和種繁殖牛 461 頭、黒毛和種肥育牛 178 頭、ホルスタイン種経産牛 114 頭）するとともに、耕畜連携を中心に自給飼料面積を拡大し、地域粗飼料資源をフル活用している。その結果、肉用牛部門の飼料 TDN 自給率も 44.3%と極めて高くなっている。

・受賞者の特色

（１）地域粗飼料資源のフル活用による経営の強靱化

所有地、借地および河川敷に加え、耕種農家 69 戸と連携し稲 WCS・稲わら・麦わらを収集するなど作付け延べ面積は 396ha（1,200 筆以上、生産量 4,523t）に及び、輸入飼料依存度を低減し国内飼料自給率を高めた強靱な経営を達成している。

（２）ICT 機器の活用と周到的飼養管理による省力化と子牛・育成牛損耗防止の両立

子牛や肥育牛の健康管理、繁殖牛の発情分娩監視などに最適な ICT 機器を活用するとともに、低温殺菌ホルスタイン種初乳給与、超音波式加湿器の利用、寒冷期の温水給与、子牛用授乳マシーン活用などで省力化と損耗防止を両立している。

（３）女性の活躍

従業員 8 名のうち 4 名が女性で、哺乳部門のリーダー等の役割を担い、子牛等の的確な飼養管理による事故率の低減化を通じて経営に大きく貢献している。

・普及性と今後の発展方向

有田氏は農協等の役員や指導農業士として実習生や研修生の受入等を積極的に行うリーダーであり、地域内連携による飼料生産拡大や ICT 機器の有効活用は普及が期待される。地域の高齢化が進む中、今後ともほ場管理の担い手として地域粗飼料資源のフル活用に挑み、肉用牛部門の経営強靱化を図ることは全国の模範となる。

令和 5 年度天皇杯受賞者受賞理由概要
林産部門

たゆまぬ創意工夫による優良なトドマツコンテナ苗の安定供給

○氏名又は名称 谷口 淳一

○所 在 地 北海道北斗市

○出 品 財 技術・ほ場（苗ほ）

○受 賞 理 由

・地域の概要

北斗市は、北海道の南西部に位置し、南は函館湾に面しており、対馬暖流の影響を受け、最低気温は1月の－4℃、最深積雪は50cm程度と道内では比較的降雪量が少ない温暖な地域である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

谷口氏は父が設立した有限会社谷口精光園の代表取締役役に平成 25 年に就任すると、平成 26 年度から、気象害を受けにくく、また育苗作業を通年化できるコンテナ苗生産に着手した。トドマツコンテナ苗 1,200 本から毎年生産規模を拡大し、令和 4 年度ではトドマツコンテナ苗 30 万本、カラマツやクリーンラーチのコンテナ苗を合わせると約 52 万本を作付け、コンテナ苗生産量としては道内 3 位で、トドマツコンテナ苗は全道の約 4 割を占めている。積極的な設備投資による事業形態の刷新や労働環境の改善等により効率的な生産を行い、北海道の代表的なコンテナ苗生産者として優良なコンテナ苗を安定的に供給している。

・受賞者の特色

（１）創意工夫による現場のニーズを踏まえた優良なトドマツコンテナ苗の生産

試験研究に熱心な谷口氏のコンテナ苗生産技術は全国的にみても非常に高い。特にトドマツコンテナ苗は、出荷までに概ね 4 年の長い育苗期間を要するほか、苗長に差が生じやすい、根鉢が中央から崩れやすいなどの特有の課題がある中、植栽時の労働負荷や下刈り作業の軽減が期待できる大きい規格のコンテナ苗として苗長を揃えた出荷を可能にし、また根鉢を生分解性不織布で包むことで梱包や輸送、植栽の際に崩れないようにするなど、現場のニーズを踏まえ技術改良を重ねた結果、谷口氏のトドマツコンテナ苗は、植栽する事業体から高い評価を受けている。

（２）合理的な土地利用と作業効率化の創意工夫が生み出す高い苗木生産能力

ほ場や施設内の舗装化や移動式レール台車、プラスチックパレットの育苗台の導入、ハウスについてはスマートフォンや PC で内部の温湿度等の情報を取得し、遠隔操作による灌水、液肥、殺虫殺菌を可能とする設備の導入等、合理的な土地利用や苗木生産効率を高めるための創意工夫に徹底して取り組むことで、高い苗木生産能力を生み出すとともに、作業者の労働負荷の低減を実現している。冬期の作業が可能となったことで 18 人を通年雇用している。また、雇用者 44 人のうち 38 人が女性であり、常に暖かくきれいなトイレの設置をはじめ、女性が働きやすい職場づくりに取り組んでいる。

・普及性と今後の発展方向

同業者との交流も積極的に行い、自らが得た知識を惜しみなく共有するなど、業界全体の発展を目指している。積極的に設備投資を行い、施設を進化させる意欲に溢れており、既に生産に取り組んでいるクリーンラーチ及びトドマツのコンテナ苗生産施設を更に拡充し、大幅な生産増加を目指している。

令和 5 年度天皇杯受賞者受賞理由概要
水産部門

脂ののった氷見産大羽イワシのみりん干し

○氏名又は名称 株式会社 半七（代表 窪田 博晃）

○所 在 地 富山県氷見市

○出 品 財 産物（水産加工品）

○受 賞 理 由

・地域の概要

氷見市は、富山県の北西部、能登半島の基部に位置し、東側は富山湾に面している。特徴的な海底地形を有する富山湾は、暖流の流入も加わり様々な魚種の好漁場となっている。定置網漁業発祥地の一つとされ、「ひみ寒ぶり」で有名である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

株式会社半七は、大正 2 年創業、平成 26 年に現社名に改組した。令和 5 年に最新急速冷凍機（プロトン冷凍）を備えた、HACCP 認証に向けた設計の第 2 加工場を新設した。

・受賞者の特色

（１）技術の特色

- ① 氷見産の厳選された良質な体長 25cm 以上のマイワシを原料に、手開き等の丁寧な作業と桜干し（みりん干し）の製造技術の伝統を受け継ぎ、製造している。また、創業 100 年余引き継がれてきた保存料・着色料無添加の秘伝調味液を用いている。
- ② プロトン冷凍機を導入し、食品・食材の鮮度や食感、風味を逃さずに急速冷凍を行い、品質向上を図っている。
- ③ 脂質含量が高い原料は脂質の酸化が起りやすく加工に不適であるが、賞味期限を短く設定して、製品の脂質の酸化を防いでいる。

（２）地域への貢献

株式会社半七は、氷見産の魚を美味しく食べてもらうべく氷見の魅力発信の代表となる製品の製造、氷見の朝獲れ魚を使用した幼児食チルド宅配サービスの製造など氷見の魚のブランド力を高める取組を行っている。また、氷見水産加工業協同組合と氷見市役所主催の市内小学生を対象とした魚捌き教室への従業員の派遣や冬季町内の除雪作業など地域の活動に貢献している。

・普及性と今後の発展方向

出品財は、従来の硬いイメージを打破した柔らかくて食べやすいみりん干しである。加工品製造の多くが機械化されている時代、出品財の製造はすべて手作業であることに希少価値があり、手作りの良さが見直されていることから普及性が高いと評価された。また、受賞者は、伝統を守りつつ時代に沿った形の鮮魚、水産製品の提供に努め、SDGs へつなげる取組を計画していることから今後の発展が期待される。

令和 5 年度天皇杯受賞者受賞理由概要
多角化経営部門

香りの強いユズの特徴をいかした先駆的な 6 次産業化の実施

○氏名又は名称 馬路村農業協同組合（代表 北岡 雄一）

○所 在 地 高知県安芸郡馬路村

○出 品 財 経営（ユズ）

○受賞理由

・地域の概要

馬路村は、県東部の徳島県境に位置する。周囲を標高 1,000m 級の山に囲まれており、村の総面積の約 96% が森林となっている。年平均気温は約 17.4℃、年間降水量は約 4,400mm であり、温暖な気候や豊富な降水量に恵まれている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

地域の主要産業である林業が衰退する中で、平地が少なく日照時間も短い山村で林業に代わる特産品を模索し、昭和 30 年代から栽培されているユズに着目した。馬路村のユズは、皮が厚くて酸味も強いため青果販売は難しいが、香りが強い特徴があることから、6 次産業化の取組が一般的ではなかった昭和 50 年代に生産・加工・販売を一貫して行う体制を整え、村の特産品として全国的に認知されるようになった。

・受賞者の特色

（１）安心・安全なユズの循環型農業

化学肥料や農薬を用いない有機農業やそれに準じる栽培を行うために「馬路村ゆず栽培の指針」を制作し、平成 13 年から全農家はその指針に則した栽培に取り組んでいる。また、ユズ加工品の生産過程において出た残渣を、地域の製材所から排出される木の皮などの木材残渣などと混ぜて堆肥化し、農業者に無料配布するなど循環型農業も実践している。

（２）商品と村を同時に売り込む販売戦略

馬路村の田舎のイメージを前面に押し出した情報を商品に乗せることで、村の魅力と商品の魅力を併せて消費者に伝えるという広報戦略を展開した。開発した商品が百貨店の名産品コンテストで最優秀賞を受賞したことを契機に、商品のファンだけではなく馬路村に愛着を持つ消費者が増加し、観光客の誘致につながった。

（３）高齢化等の地域の課題への対応

住民の高齢化に伴い、農繁期に人手を確保することが困難になってきたことから、平成 29 年からユズ収穫に従事しながら、馬路村の暮らしを体験することができる「ふるさとワーキングホリデー ゆずとり応援隊」の運営を行っている。

・普及性と今後の発展方向

今後も地域振興のためにできることを模索するとともに、更なる多角化経営を目指し、加工品の輸出に取り組む構想の実現に取り組む。

令和5年度天皇杯受賞者受賞理由概要
むらづくり部門

地域課題を農業で解決！老若男女・農も福祉も、地域一丸「百姓百品」

○集団等の名称 百姓百品グループ（代表 和氣 數男）

○所在地 愛媛県西予市

○受賞理由

・地域の沿革と概要

西予市は、愛媛県の南西部に位置する。野村地区は、市東部の中山間地域で、地区全体が四国山脈に囲まれており、四国カルストを源とする豊かな水と土壤に恵まれた自然の多様性に富んだ地域である。

高齢化や人口減少が進行し、経営耕地面積も減少している危機的状況を打破するため、当時の町役場担当者が視察先の野菜の移動販売に可能性を見出し、産直活動を開始した。活動に専念するため、平成10年に退職し、農家140人で「百姓百品産直組合」を設立。平成18年に生産者を株主とする「百姓百品株式会社」に移行した。

・むらづくり組織の概要

耕作放棄の解消のため、農業生産法人「株式会社百姓百品村」を平成20年に設立し、農地を借り受け、青ネギの自社生産を開始した。農業の担い手確保と障がい者の経済的自立支援のため、就労継続支援B型事業所「株式会社野村福祉園」を平成25年に設立し、農福連携の取組を開始した。「地域の課題を農業で解決する」をミッションに、3つの組織が相互機能を果たしながら、地元住民と共に地域の問題に取り組んでいる。

・むらづくりの取組概要

（1）農業生産面

- ① 百姓百品株式会社では、地区内に集荷場を複数設置し、松山市内のインショップ等に配送・販売している。組合員数は、農産物だけではなく花きや加工品等の出荷者も加わり400人を超え、小規模農家、高齢者、女性や農協出荷中心の農家の補完的な出荷先となっており、貴重な収入源に繋がっている。
- ② 百姓百品村では、耕作放棄地（約200ほ場、15ha）を借り受け、通年栽培が可能な青ネギを生産し、業務用ネギとして30社との契約取引を行っている。当組織から契約農家として独立した2名のサポートなど生産者の育成にも注力し、新たに基盤整備を行う区域では、2.7haの農地を担い手に集積する予定となっている。
- ③ 野村福祉園では、ネギを主体とした農作業を百姓百品村から受託し、総勢40人程の障がい者が働いており、地区平均の2倍を超える高い工賃を実現している。

（2）生活・環境整備面

- ① 地元住民一体となった産直事業は、住民の収入増だけではなく生きがいの創出にも繋がっており、加工品の出品は伝統食の継承にも寄与している。
- ② 高齢者や女性が株主になり組織運営に参画する環境や、農福連携による障がい者の活躍の場を創出している。地域おこし協力隊や地元農業大学卒業生等の若手職員を採用し、農村の因習に捕らわれない新しい感覚を地域に持ち込み取組に反映しており、代表取締役への若手女性の登用など世代交代も進んでいる。

・他地域への普及性と今後の発展方向

本取組は、農業を通じて、小規模農家の所得確保、女性・高齢者・障がい者の活躍の場の創出、地域の雇用、耕作放棄地の発生防止に寄与し、地域全体を巻き込みながら活動を展開しており、今後も取組の発展が期待できる。地域の課題を持続可能な事業として体系化し、地域全体で取り組む「ソーシャルビジネス」として展開している本取組は、全国におけるむらづくりのモデル事例になり得るものである。